

平成 30 年度池田町公民館大会分科会記録集 (5 月 26 日開催)

第 1 分科会 会場：公民館 1 階 講堂

テーマ・内容 「分館・生涯学習」 分館活動どんなことしよう？	
参加者 8 名	担当者 生涯学習課 生涯学習係 塩原長 地域おこし協力隊 小林駿友
1 アイスブレイクの内容・結果 内容 バースデーライン（無言で誕生日順の輪になる）および自己紹介「ご自身の名前の由来」	
2 体験・発表等の内容・結果 内容 飛ばせ！オリジナル紙飛行機 結果 2 人のチームに分かれ、①飛距離 ②滞空時間 を競った。昔得意だったという人、経験ほぼなしという人、技量は様々だがそれぞれ熱中し、充実した体験となった。仲間づくりや分館事業への参考などにもなったと思う。	
3 話し合いの内容・結果 『分館活動どんなことしよう』というテーマで、分館活動の現状の課題からその背景を探り、解決方法を考えていきました。 2 グループに分かれ話し合いを行いました。その中でどちらのグループからも出てきた課題は、「少子高齢化で若い人が参加してくれない」ことと「役員が変わらない、参加者が変わらないなどによる活動内容のマンネリ化・固定化がある」こと、「男性の参加が少なく、（一部講座が）ほぼ担当区住民の義理の参加が中心となっている」ことでした。 その課題の背景として出てきたのは「分館活動が役員任せになってしまっている」ことや「若い人が入ってきづらい（入ってきてくれない）」こと、「娯楽の多様化によって多様な楽しみができた」こと、「限られた予算の中でやれることが限られてしまう」ことなどでした。 そこから考えられる改善方法としては、「全ての人の意識を高揚させる」ことや「車の送迎付きの活動を作る」こと、「活動数を少なくする」こと、「子どもがある程度の年齢になったら、会議などの場に連れて行く」こと、「特殊詐欺や交通安全に関する講座や体操系の講座をひらく」こと、「社協のバスを活用して、移動して講座を行う」ことなどの意見が挙がりました。 以上のことから、分館活動に携わっている方々は現状の分館活動の内容や役員構成に「マンネリ化・固定化」を感じており、その中で「若者が関われない」「新しいことにチャレンジできない」という状況が生まれていることが分かりました。	

第2分科会

会場：公民館 1階 学習室

テーマ・内容 「自治会」自治会活動の未来	
参加者 10名	担当者 企画政策課町づくり推進係 係長 寺島靖城 企画政策課町づくり推進係 丸山佳男
1 アイスブレイクの内容・結果 自己紹介	
2 体験・発表等の内容・結果 事例発表：「県内各地の自治会加入率」 以下の資料をもとに説明 ● 人口減少・高齢化社会を見据えた強固な地域コミュニティの形成（松本広域圏の職員有志による政策研究成果報告書） ● 自治会加入率向上や地域コミュニティ再生の先進事例について（北アルプス地域振興局企画振興局）	
3 話し合いの内容・結果 自治会活動全般について、課題や困りごとなどを参加者から出してもらい、その解決策を探った。 ■未加入者、脱会者 ◎課題 ● 未加入者をどのように導いたらよいか ● 未加入者への勧誘の仕方？ ● 未加入者への対応 加入って必要なの？ ● 地区で強制加入のルールを作れる？ ● 新規に自治会に加入する世帯が減っている ● 自治会加入のメリットがあまり示せない ● そもそも未加入って何が問題なの？ ● 住民票の有無と入会は関係あるの？ ● 自治会を脱会する世帯が増えている ● 加入者戸数減により予算減→事業縮小 ◎対応策 ● 役場の転入手続きのときがポイント ● 転入時の対応が肝心 ● 自治会役員が訪問 ● アパートは会費を別に決める ● 宅地造成するときに入会を条件に売ってもらう ● 加入したら継続して入ってもらえる中身 ● 地区内を回ってみて未加入者を把握して加入促進する ● 自主防災会とか行事にまず誘ってみる ● 入会の魅力を明らかに ● 資料 P.9 アンケート 自治会長と未加入者のギャップを埋める	

■活動の意義

◎課題

- 自治会と関係のないことが多い
- 個人の自由が多い
- 自治会に関する無関心
- 自治会での会議も報告のみで終わり 工夫が大切
- 参加しない人は何を決めたかわからない
- 協力する人が少ない
- 毎年役員が変わるため自治会活動の継続性がない
- 行事を計画しても参加者が少ない（役員が主）

◎対応策

- 何か楽しい行事があれば参加しやすい ほたる祭り（子どもと共に楽しむ）

■自治会費

◎課題

- 自治会費 町一律に
- 自治会費の額が難しい 経済的に会費を払えないときどうするか
- 自治会費にどこまで含めたらよいの？
- 自治会費が高額化している
- 入会費が高い 新移住者に対して
- 持家と借家の方との考え方の違い（自治会費等）

■高齢化、役員の担い手

◎課題

- 高齢者になると自治会に入っているメリットがない 負担ばかり
- 高齢化で役員のなり手が少ない
- 自治会から脱退する方がいる（高齢化により役員困難）
- 加入者減→役員固定化→高齢化により維持困難
- 年齢の高い方しか総会に出てこない
- 高齢一人暮らし者（未加入者）へのフォロー
- 敬老会の対象者が多くなっているが、参加者少→記念品配布に変更

■しがらみ、固定化

◎課題

- 集会などでも時間ばかりかかって有意義な話が少ない
- 昔からの地区内のしがらみが反映されている自治会
- 以前からのやり方を・・・みたいな方が多い（活動内容など）
- 世代が変わると活気が弱くなっていく

■行事が多い、集まらない

◎課題

- 自治会に入ると田舎は行事が多い
- ナイターソフトボール、バレーボールの選手が集まらない
- 自治会行事に参加しない
- 行事に出席する人固定化→義務出席で楽しんでいない？
- ほたる祭り等1週間くらい出勤させられる 無償で

■役員の負担、なり手不足

◎課題

- 自治会役員になると事務的な仕事も多い（書類）
- チラシが回ってくるのが多い
- 役員のなり手がいない
- 役員決めなどでも押し付けになることが多い
- 役員になりたくないからと、自治会に加入しない転入者もいる
- 役員になる回りが早い
- 順番制で役員が選出されるが、結果的に引き受けられない方がいる
- 自治会長の役割が不明
- 自治会長の会議が昼間に行われても参加が困難

◎対応策

- 役員が楽になるよう改善する

■その他

◎課題

- 自治会未加入者の方の情報不明→災害時の対応困難
- 自主防災会との切り分けはどう考える？
- 一年任期なので新しいことはやらない
- 隣接町内との境目がわからない
- 少子化によりお祭り等の人数不足（お囃子など）
- 池田町のチラシ（自治会勧誘チラシ）の文面が固すぎる気がする

【総評】

課題出しに時間を要し、対応策や解決策を話し合う時間があまり取れなかった。

7月の自治会協議会では、この分科会で出された課題のうち、自治会未加入対策について議論を深めたい。

4 その他

参加者から、宿直を介さずに夜間書類を提出したいときがあるので、庁舎西口に郵便受けを設置してほしいとの要望あり。都度、宿直の方を起こしてしまうのは申し訳ないとのこと。⇒5/28 に総務課宮澤補佐に伝達。「設置に向けて検討していく」との返事もらったので、要望者にメールにてその旨を伝えた。

第3分科会

会場：公民館 2階 第3会議室

テーマ・内容 「移住定住施策」 移住定住施策と自治会	
参加者 7名	担当者 企画政策課 移住定住促進係 遠藤 孝昭
1	アイスブレイクの内容・結果 人口減少を感じる場面の発表。 自治会により人口減少を感じる場面は異なるが、地域のお祭りなどで子供が減っていることを実感しているのは共通していた。
2	体験・発表等の内容・結果 池田町の移住施策と課題を説明 【課題】・住まいの問題 ・就業の問題（特に若者）
3	話し合いの内容・結果 ○ベッドタウンとしての発展 ・企業誘致は難しい状況にある。また企業誘致しても、従業員が全て池田町に住むとは限らない。現状、安曇野市や松本市へ通うベッドタウンの側面が多いのであれば、ベッドタウンとしての魅力を高めることが必要なのではないかと。 ○公共交通の充実 ・近隣と比較して池田町が居住地に選ばれないのは、公共交通の問題が一番大きいのではないかと。 ・町営バスは日曜運休で平日の本数も少なく、乗り換えがしにくいなど、不便。 ・人口減少問題における公共交通の問題は日本全国共通の課題。日本全体が超高齢化社会を迎える中で池田町が免許返納しても生活しやすい町になれば、先進地として多くの方のきてもらえるのではないかと。 ・池田町は駅がないことがイメージを悪くしている。決して駅まで遠いわけでもない（松本市、安曇野市でも駅が市内にあっても駅から遠い地区はたくさんある）ので、そのことをPRすることが必要。 ・町内に駅はなくても、そこまでのアクセスがよければPRできる。 ○その他 ・高齢化率が高くなると施策も高齢者の意見がとおりにやすくなり、ますます若者が住みにくくなる地域になる恐れがある。平均人口が若い町であれば若い人も呼び込みやすいが、高齢者が多いと難しいのではないかと。
4	その他 池田町の人口減少、移住施策を理解していただくとともに、住民の方が考えていること、感じていることを聞くことができる貴重な機会となりました。

第4分科会

会場：教育会館2階

テーマ・内容 【花とハーブのまちづくり】あなたが思う『花とハーブの里』

参加者 11名

担当者

花とハーブの里ブランド化推進委員会 修景促進部会長

栗林克行氏

池田町産業振興課花とハーブの里推進係

塩原舞子

地域おこし協力隊

森本健太郎



1 アイスブレイクの内容・結果

—他己紹介—

ペアになり、互いに1分間インタビューし、互いに相手の紹介をします。

例)「私の隣のこの方は〇〇さんです。好きなものは〇〇で…」



アイスブレイク2（グループ分け）

池田町といたら何色（をイメージしますか）？」の問いに対し、全員で（せーの）「〇〇色！」と答えます。

今回は「緑」と答えた半数と「それ以外の色（青・紫・白等）」と答えた半数とでグループ分けをしました。



2 体験・発表等、話し合いの内容・結果



10:10-11:40

それぞれのグループごとにハーブティーをいただきながら進めます。

2班とも、それぞれのファシリテーターのカラーが出るプレストでした。

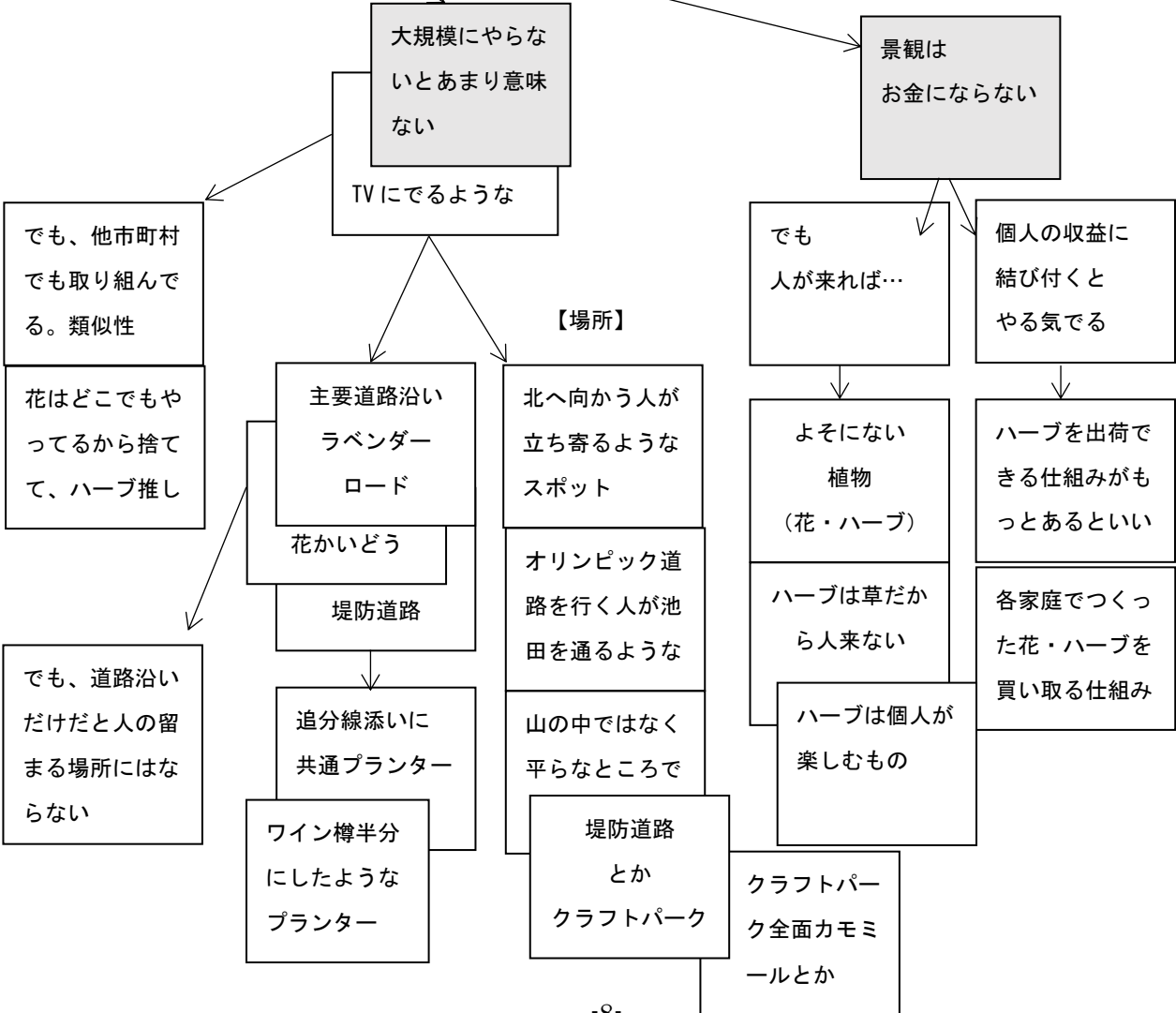
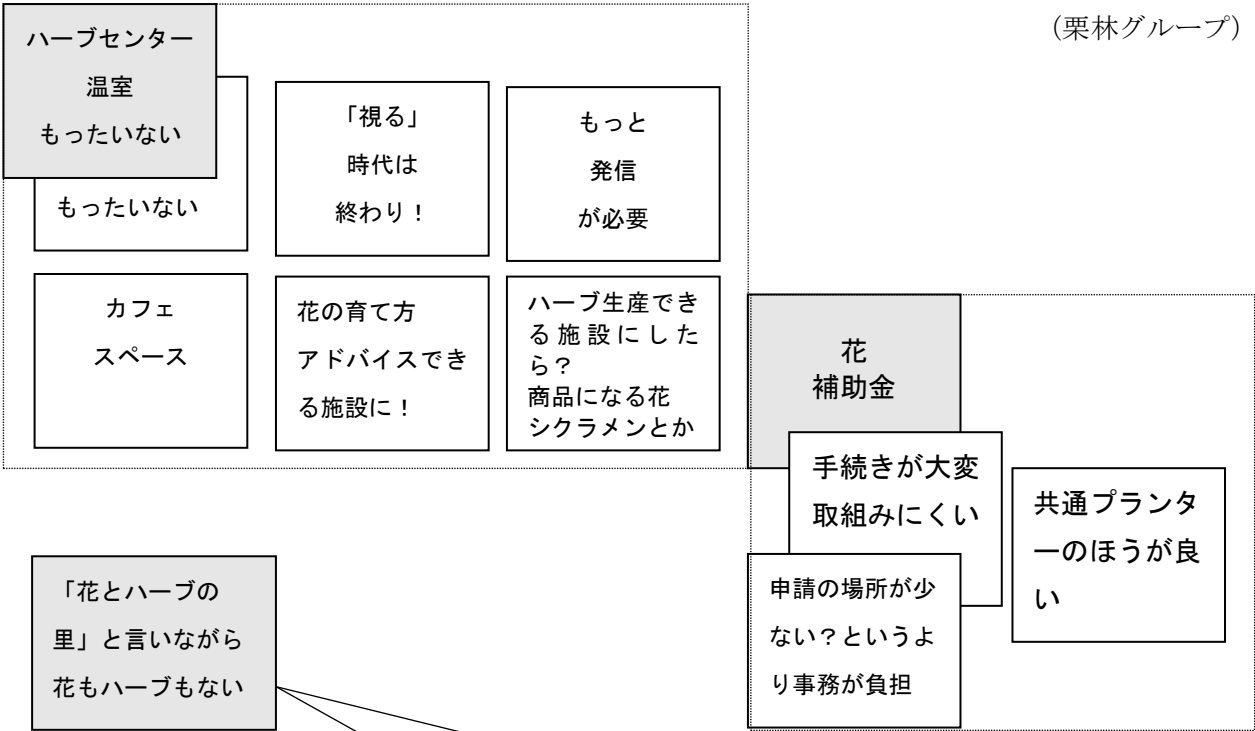
（栗林グループ）

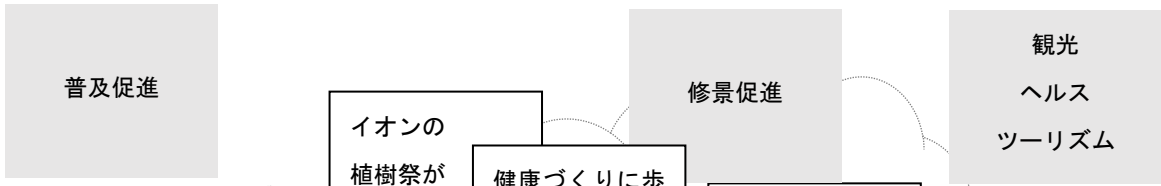
花のある瞬間でいいなと思うときは？好きな花は何？（ガーデニング等で）困ることは？といった、雑談(?)から、参加者自身と花・ハーブの関わりを考えはじめ「池田町は花とハーブどちらを推したらいと思いますか？」から町と花・ハーブの関わりを考えるきっかけづくりをしていました。

（森本グループ）

町の取り組み（ブランド化推進委員会・3つの事業（修景・普及・ツーリズム）の概要を話し、町に住んでる皆さんが思う「花とハーブの里」ってこんな感じを知りたいことを伝えた後、「花とハーブの里×朝起きてから寝るまでにすること」エクスカージョンをきっかけに、参加者の声を聞きだしていました。







展望道路にハーブ植える

有線放送などで「今日のハーブ」ひとつずつ案内15:00ティークムでのんでみては

「ミス・ハーブの里」とか作ってその人に効能を案内してもらおう

イオンの植樹祭がすごい

健康づくりに歩いている(ラベンダーの香り)

ハーブ植えても雑草がすごい

散歩道にラベンダー一通りをつくる

NPO 法人 ボランティア ビジネス?

ボランティア → 見出す 薪ストーブへ販売する → 稼ぐ

ハーブの香りの歯磨き粉を使う

SNS にアップするのも ボランティア

ハーブを練り込んだ麺をつくる

ハーブ料理

ハーブの香り進め方

情報を つなぐこと

町民で立ち上がればビジネスのネタはある!

朝食：和食日本茶
昼食：パン食ハーブティー
サラダ ハーブ混ぜて
夕食：肉魚はハーブに漬け置き

バジルを育ててバジルオイルをつくっている

自分の得意な分野をつなげる

和食に合うハーブティー

朝食にハーブティーを飲む

夢農場からハーブの効能商品案内

ハーブソムリエ・花ソムリエ作って勉強 → 案内してみてはメディア・SNS で池田町の情報発信

ハーブティーの作り方

聖地を築く景色の良い所若い人にアピールクラフトパーク・ハーブ園など

ハーブ育成している写真をフェイスブックで紹介

ミント水・水分補給にミント類を摘んで水に入れたものを飲んでいる

難
個人での取り組み
易

テーマ：あなたの思う「花とハーブの里」ってなに？

- 1) エクスカーションのワークシートから「朝起きてから寝るまでにすること」に「花とハーブの里」を加えた時にこんなことができる！の葉がしげった
- 2) 木ができた後、結果「どんな木ができましたか？」を参加者に問い、○の3つの実が実った

あなたの思う「花とハーブの里」ってなに？

-9-

第5分科会

会場：公民館 2階 第1会議室

テーマ・内容 【福祉】 みんなで参加してつくる助け合いの地域づくり	
参加者 10名	担当者 西澤ふみ（社協）、齋藤恵子（地域包括支援センター）
1 アイスブレイクの内容・結果 ○自己紹介、私の趣味 ・趣味を活かした地域活動を期待し、参加者に趣味をお聞きした。 ・多趣味な方が多く、関心が高かった。	
2 体験・発表等の内容・結果 ○『近隣助け合いゲーム』体験 「掃除」「草むしり」「除雪」「買い物」「話し相手」などの60種類のサービスメニューカードを広げ、自分が（もし一人暮らしの高齢者になったら）助けてもらいたい（してもらいたい）ことをそれぞれ5枚ずつ選び、その内容をしてくれる人を探し、交渉する。 ・体験を通して、参加者同士が今のご近所づきあいの様子や意見交換をした。近所の気になる方にどのように声をかけたら良いか、家で気軽にお茶会などをやってみたい、などの話があがった。 ○『のびのびゴム体操』の取り組み、体験 ・初めて体験した方が多く、介護予防として公民館等でも取り組めるゴム体操を知っていただくことができた。地区でゴム体操を始めたいとの声も聞かれた。	
3 話し合いの内容・結果 ○『地域の一員として、これから取り組めそうなこと』を出し合った。 ・まずは自助として、体を鍛える。 ・ゴム体操を宣伝する。ゴム体操の後継者になる。 ・近所で声掛け、心配り、おしゃべり（話し相手）をする。見守る。買い物の手伝いをする。 ・生きがいもてるような、自分の趣味を活かしたふれあい精神でお役に立ちたい。 ・地域の集まりに積極的に顔を出す。地域の行事にフル参加する!! などの意見があがった。今後の実践につながると良い。	

第6分科会

会場：公民館 2階 第2会議室

テーマ・内容 【地域防災】 これからの地域防災	
参加者 9名	担当者 総務課消防防災係 佐藤静雄
1 アイスブレイクの内容・結果 「最近ハッとしたこと」を含み自己紹介、各地で頻繁に起きる地震が怖い。池田でも必ず発生すると思 って気構えるべきだ。地震も恐いが東山の土砂災害が危険と感じている。神城地震を身をもって体験し た災害の恐ろしさ。	
2 体験・発表等の内容・結果 第1部は神城断層地震での災害写真や自主防災会の取組や訓練、住民支えあいを実行していた経 過等をパワーポイントによるスライドで紹介。これに対し第2部で意見交換を実施する。	
3 話し合いの内容・結果 各自治会共に住民支えあいマップの作製はされていても更新していない実態がある。今後は真剣に 取り組んでいきたい。 神城断層地震では、叔父が被災したが、支えあいマップにより助けられた。避難場所も周知されてい て、大勢の人が広い場所に集結していた。 町の防災訓練は、予告なく夜間に実施したりできないか？役員だけで実施してみたが、ライトも不足 しており、いくつか不足しているもの等訓練の必要性が発見できた。 半在家では、「我が家の安心メモ」としてイエローカード、防災会台帳（各戸が家族構成を記入し会 長に提出したもののコピー）一式を玄関先に置き有事の際に備えている。 2丁目では、イエローカードと同等の黄緑色のカードを10年程前から実施している。掲示していな い家は救助の可能性があるため、班長が確認することとしている。 神城地区の自治会が実施していたことをこの地域に置き換え、現在の活動体制を考え直さなければ いけない。 最終的には、公助が望めない以上共助、近所の助けあいが大切であると再認識した。 この分科会に参加して大変良かった。勉強になったし、役員を退いてもかかわりたいと思う。	
4 その他 次回機会があれば、土砂災害や水災害についても学び、話し合いを行いたいとして閉会となった。 参加者には、自主防災会運営マニュアルと、避難勧告等発令基準を配布した。このマニュアルを閲覧 いただき各地区において不足している事柄について再検討を依頼した。また、池田町の発令基準と町民 の行動についてその重要性を促した。	